

## 大先達の夢、仮屋菌聡一（交遊抄）

2016/01/29 日本経済新聞 朝刊 40ページ 534文字

1年前、当時の日本ベンチャーキャピタル協会の会長、尾崎一法さんの新年会に呼ばれた。集まったのはベンチャーキャピタル(VC)業界で活動する同世代の8人。尾崎さんは皆に告げた。「僕は病と闘わねばならない。これからは君たちが業界を引っ張ってほしい」

尾崎さんは、20歳ほど年上で、大手や外資系VCでキャリアを重ね独立された、業界の大先達だ。VC協会の幹部としても創設来活躍し、会社の枠を超えて若手にも気さくに声をかけてくれた。

仕事には厳しいが、人なつっこい笑顔で場を和ませる。「よろしく」「たのむよ」。会話の最後には一言を添えて握手する。激しく議論をした後も、この一言で部下はやる気になる。

新年会で次期会長に指名されてから、日本のベンチャー企業の将来や、ベンチャーに投資し育てるVCの役割について一対一で薫陶を得た。この濃密な時間は今では宝物だ。現在の協会人事や活動内容の多くは尾崎さんが授けてくれたと言っていい。

新年会から3カ月後、尾崎さんは帰らぬ人となった。「VCの活動を通じて日本の発展に貢献したいんだ」。熱く語っていたその思いは我々も同じ。遺志を継いだ仲間たちと力を合わせ、尾崎さんの夢をかなえたい。(かりやぞの・そういち=日本ベンチャーキャピタル協会会長)

---

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.